



謹賀新年



旧年中は、弊社商品をご愛用いただきまして誠にありがとうございました。
本年も界面活性剤をはじめとした管理資材や技術力で、
ターフメンテナンスのサポートに努めてまいりますので
より一層のご支援、お引き立てを賜りますようお願い申し上げます。



1月・2月の管理ポイント グリーンシナジー

液肥とのタンクミックスに

近年は昨年の冬のように非常に乾燥した冬が続いています。冬の乾燥害は春や夏に比べて目立たないため軽視されがちですが、実際はトップシーズンにドライスポットが発生する最大の原因になっています。また冬の乾燥により、春のコウライの立ち上がりが遅くなることも問題視されています。

グリーンシナジーは様々な資材と相性がよく、タンクミックスしやすい界面活性剤です。肥料、ミネラル、糖、アミノ酸などと混用すれば、水と一緒に根圏の隅々まで行き渡ることによって利用効率が上がり肥料ムラを防ぎます。経済的な資材なので、散布の度にご使用頂けます。冬季にも定期的な予防散布による乾燥対策を行いましょう。

使用量：1~2ml/m²/月 散布水量：100ml~1ℓ/m² 使用方法：資材の散布時にタンクミックス

栄養補助剤で
植物内の代謝を活性化

ターフサプリ

肥料では補えない栄養素を芝生に供給する『栄養補助剤』です。植物内の代謝を活性化させ、芝生の健康維持やストレス回復などの効果が期待できます。肥料との混用で吸収を促進し芝生の貯蔵養分を増やすことにより耐寒性が向上し、代謝促進により色出し効果がアップします。

ベントグリーン 使用量：0.1~0.3g/m² 100~500ml/m²散布
コウライグリーン 使用量0.3~0.5g/m² 100~500ml/m²散布

冬季のサッチの除去
土壤微生物の健全化

サッチ・マネージャ―W

ウィンター

本剤は自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力があり、低温期でも活性の高い有用菌を選抜した微生物資材です。低温期のサッチ分解能力が高く、春期の気温が上がる時期までにゆっくりとサッチを分解します。

使用量：グリーン. 0.25~0.5g/m² 散布水量0.2~0.5ℓ/m²

自然な色調の着色剤

カラーメイトF-20

カラーメイトF-20は、従来品に比べ、季節感を重視した落ち着いた落ち着きのある自然な色調(ダークグリーン)に仕上がる着色剤です。物理性(固着性、速乾性、色持ち、色乗りetc)や安全性にも優れています。お求めやすい価格なので、フェアウェイなど広範囲でもご使用いただけます。

使用量：50~100倍 100~200ml/m²散布

池の水をきれいなブルーに

ワラーブルーL

池がきれいなブルーになりコースの景観が良くなります。ワラーブルーLに含まれる2種類の色素で、水生植物(アオコなど)の光合成に必要な光(430nm、630nm)を遮り、増殖を抑えます。増殖が始まる前からの使用が効果的です。安全性の高い食用色素を使用しているため、着色した池の水を芝生への散水や薬剤散布にも利用できます。

使用量：500ml/水500トン

池の水質改善に

セラクリーン

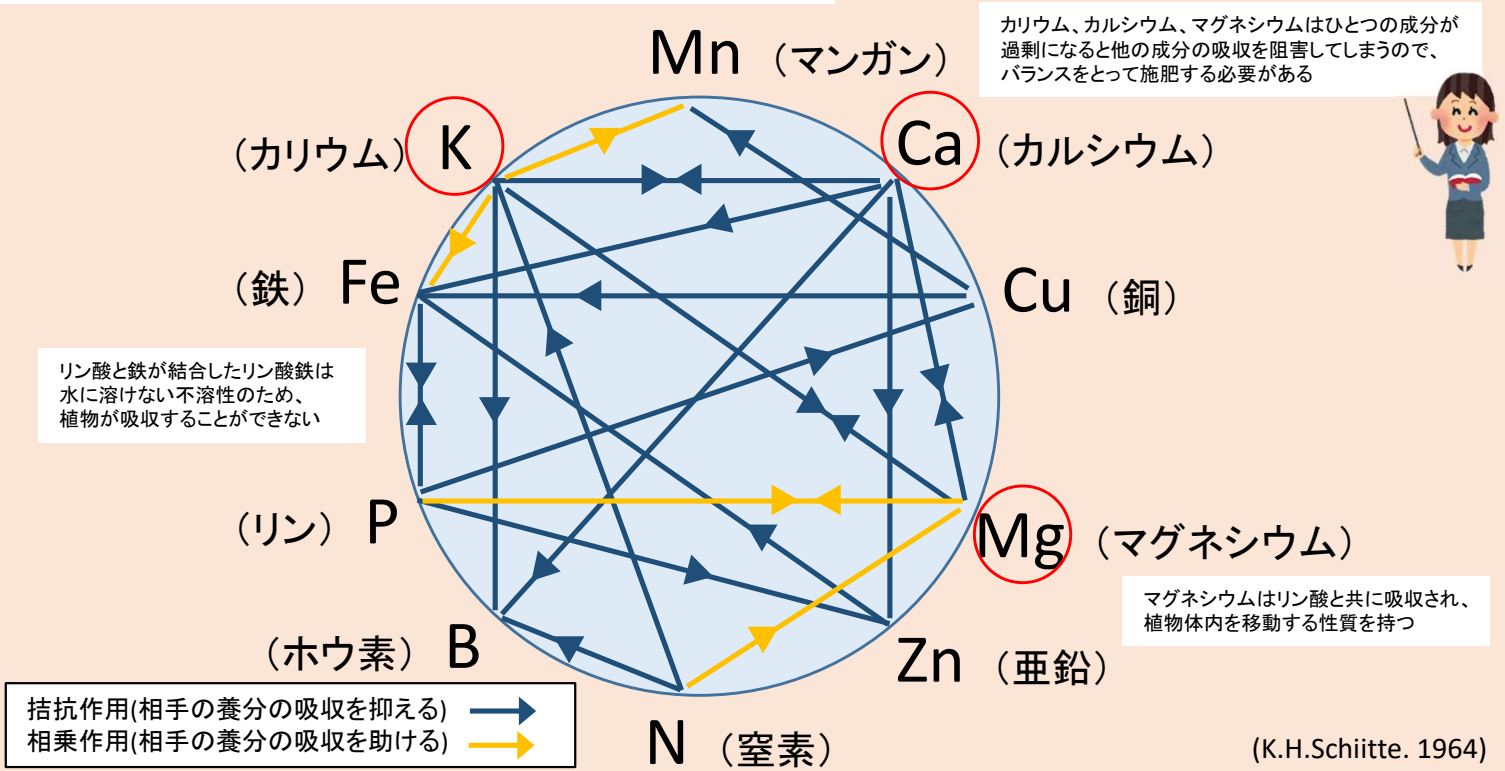
セラクリーンは、池に散布することで水中の悪臭原因物質を吸着し拡散を防ぎます。またカルシウム等のミネラル分をゆっくりと放出して水質の悪化(酸性化)を防ぐことで、池の水質浄化に優れた効果を発揮します。即効性の粉タイプと遅効性の顆粒タイプがあります。気温が低く微生物やアオコなどの活性が低い冬の間から、池の水質改善を行いましょう。池の掃除後の使用も効果的です。

使用量：5~10袋(100~200kg)/1,000m² 5~10袋(100~200kg)/水1,000トン



冬場の管理としてグリーンに液肥を散布する機会が増えてくるのではないのでしょうか？
 今回は肥料散布の際に注意したい、肥料要素間の相互作用について紹介します。

肥料成分の相乗作用と拮抗作用



上図から散布する機会が多い多量要素について表にまとめました

肥料分	相乗作用のある肥料分	拮抗作用のある肥料分
窒素	マグネシウム	カリウム ホウ素
リン	マグネシウム	カリウム 鉄 亜鉛 銅
カリウム	鉄 マンガン	カルシウム マグネシウム ホウ素
カルシウム	カリウム(カルシウム低濃度の場合)	カリウム マグネシウム 鉄 亜鉛 ホウ素
マグネシウム	リン カルシウム(マグネシウム低濃度の場合)	カリウム マグネシウム

* 赤字: 多量要素

拮抗作用による吸収阻害は養分が過剰に存在する時に起こる現象で、適量または欠乏時には起こりません。相乗作用による吸収促進も養分が適量に存在する時に起こる現象であり、過剰に存在する時は逆に拮抗作用を引き起こす場合もあります。定期的に土壌分析等を行い、効率的な施肥を行って行きましょう。